

# 豪州 - 政策金利は据え置き -

## <政策金利を1.50%で据え置き>

11月1日、オーストラリア準備銀行（以下、RBA）は政策理事会を開催し、政策金利を1.50%で据え置くことを決定しました。

7-9月のCPI（消費者物価指数）が予想を上回っていたこともあり、今回の政策金利据え置きについてはサプライズはありませんでした。

声明文では、雇用の伸びの鈍化や、住宅市場における懸念事項が指摘され、不動産価格のさらなる上昇や家計債務の増加を回避するため、物価の低迷を容認する姿勢であることが示唆されています。

## <豪ドルの推移>

10月の豪ドルは、中盤、中国人民元の6年ぶりの安値（対米ドル）や9月の就業者数減少もあり軟調でしたが、米大統領選の方向不透明による米ドルの下押しや、7-9月のCPI（消費者物価指数）が市場予想を上回ったことから、反発しています。

RBAが物価の低迷を容認する姿勢から、追加利下げ期待が後退したこともあり、豪ドルは、東京時間午後1時現在、1豪ドル=0.7653米ドル、1豪ドル=80.238円となっています。

## <今後の見通し>

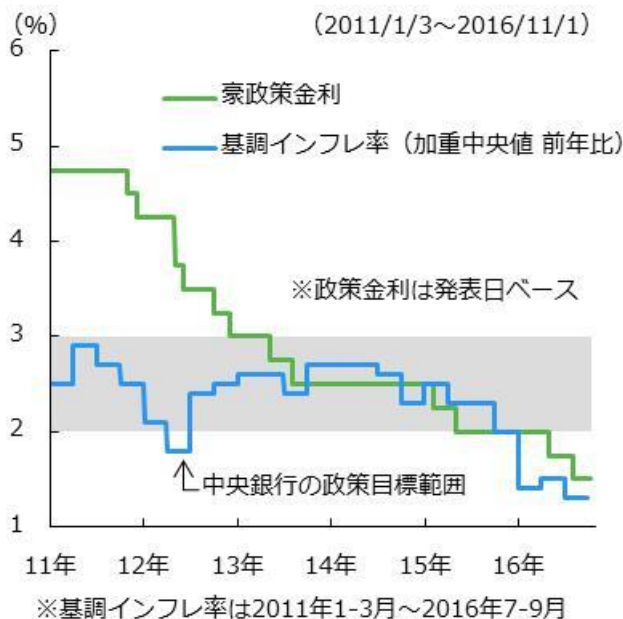
7-9月のCPIは前年比1.3%増と市場予想を上回りました。インフレ率が落ち着いていること、ロウ総裁が「インフレターゲットについてはフレキシブルに対応する」と発言していることもあり、RBAの早期利下げ観測は後退しているとみられます。

また、鉄鉱石や石炭など資源価格の堅調が続いていることも豪ドルのサポート材料になっています。

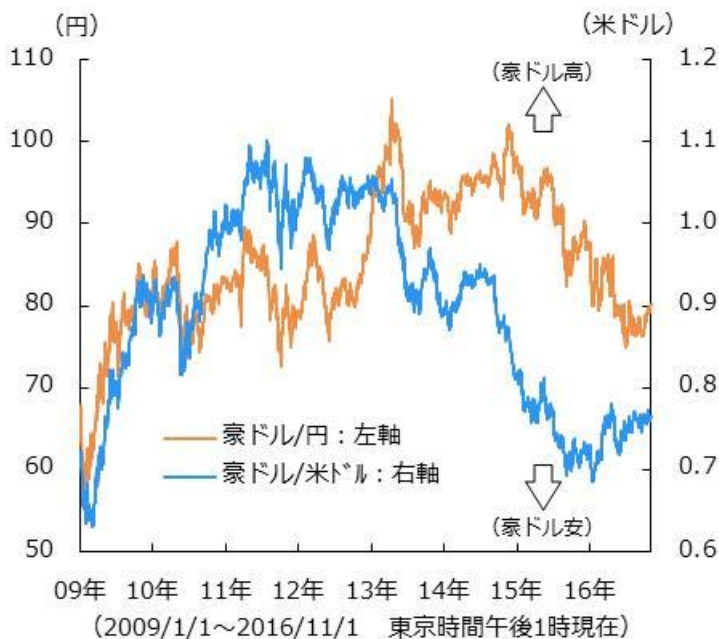
日本銀行が金融政策の枠組みを変更したことから、日本の金融緩和が持続していくことが見込まれ、豪ドル円は底堅く推移することが予想されます。

他方、市場参加者の注目は11月の米大統領選や年内（12月）の米国の利上げの可能性に集まってくるが見込まれます。これらのイベントが近づいてくることで政治情勢に対する見方が金融市場に影響を強めていくことが予想されます。

## <政策金利とインフレ率の推移>



## <豪ドルの推移>



出所：Bloomberg